

## 11)大ヨークシャー系統豚「ハマナスW1」の造成に関する試験

滝川畜産試験場 研究部 養豚科

### 1.はじめに

わが国の豚肉の消費動向は、外食産業や加工業者の需要が増加する傾向にあり、生食用としての需要についても小口の小売り販売から量販店による大量販売へと変化してきている。これに伴い、養豚生産者は品質が優れ、しかも品揃えのよい豚肉を定時に定量出荷することが求められている。一方、肉豚生産は3元交雑豚が主体であるが、交雑する品種が個体によるバラツキがあり、生産された肉豚のバラツキも大きく、流通場面でのニーズに十分こたえられていない現状にある。このため能力のバラツキが少なく遺伝的に斉一で高い能力をもった個体で構成された豚群である系統を造成することが求められている。滝川畜試では昭和54年からこれらのニーズにこたえる系統豚を造成するため大ヨークシャーの系統造成試験を開始した。6世代にわたり選抜を行なった結果、平成元年に増体能力が優れ、脂肪蓄積が少ない高能力の系統豚「ハマナスW1」を造成した。

### 2.造成経過

オランダ、アメリカ、イギリスの3原産地から輸入された大ヨークシャーを国内購買により導入し、原産地ごとの能力調査を行い、それぞれの原産地の長所を取り入れ、さらに改良するため原産地間の交雑によって基礎豚群を構成し、選抜育種試験を実施した。選抜においては発育と脂肪蓄積を重点に改良するため、一日平均増体重、飼料要求率、背脂肪厚、ロース断面積について改良目標を設定して選抜指数式を作成した。この選抜指数式に基づいて6世代にわたり選抜を実施した。

### 3.特性の概要

「ハマナスW1」は、これまでわが国で造成された豚の系統の中で増体がもっとも優れ背脂肪厚も薄い系統である。育成期間中、運動場のない狭い豚房で不断給飼により飼養したにもかかわらず、肢蹄の故障がほとんどなく、足腰が丈夫である。体型では体が長く、幅が中程度で体高が比較的高い特徴をもった系統豚である。

### 4.普及態度

ランドレースの系統豚については滝川畜試で現在造成中であるので、これが完成するまでは既に完成した系統豚を利用する。「ハマナスW1」の雌にランドレース系統豚の雄を交配した系統間一代雑種およびこの逆の交配によるものを母豚にし、デュロック系統豚の雄を交配して生産した系統間3元交雑豚をコマーシャル肉豚として利用する。

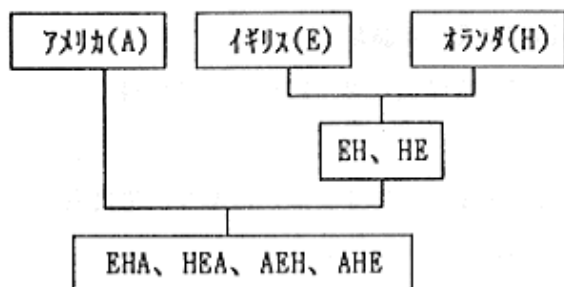


図1 基礎豚の構成

表1 「ハマナスW1」の能力

	雄	雌
1日平均増体重(g)	970	881
飼料要求率	3.00	3.14
背脂肪厚(cm)	1.31	1.28
コース断面積(cm <sup>2</sup> )	20.0	-

注)コース断面積は生体重90kgで屠殺した去勢雄の5、6胸椎間の値。

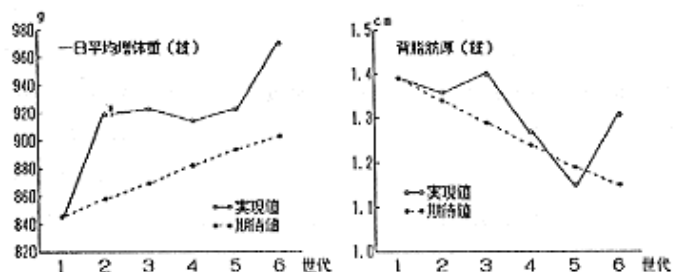


図2 1日平均増体重と背脂肪厚の選抜経過

表2 「ハマナスW1」の造成第5世代を利用した系統間一代雑種の繁殖成績

交雑組合せ	分娩腹数 (頭)	分娩子豚頭数 (頭)	離乳子豚頭数 (頭)	離乳時体重 (kg)	離乳時育成率 (%)
LW	10	12.8	10.5	6.83	97.7
WL	9	11.4	10.2	7.23	95.4
平均	19	12.2	10.4	7.02	96.6

注)LWはランドレース雌に「ハマナスW1」雄を荒廃した組合せ。WLは逆の交配による組合せ。組合せに用いたランドレース系統豚は、クニエルとエド。離乳は生後4週齢。

表3 「ハマナスW1」の造成第5世代を利用した系統間3元交雑豚の肥育出荷成績

性別	頭数 (頭)	出荷日齢 (日)	枝肉重量 (kg)	背腰長Ⅱ (cm)	コース断面積 (cm <sup>2</sup> )	背脂肪厚(セ) (cm)	上物率 (%)
去勢雄	72	172	70.9	73.7	20.8	2.04	48.6
雌	69	179	71.7	75.2	20.9	1.67	80.5
性区別なし	141	175	71.3	74.3	20.9	1.86	64.9

注)組合せは、LWにデュロック系統豚サクラ201(D)を交配したLWDとWLにDを交配したWLD。